

自:2017年4月1日
至:2018年3月31日



NCAJ
National Camping Association of Japan

事業報告書 2017



キャンプディレクター1級養成講習会

公益社団法人 日本キャンプ協会

2017年度事業総括

2017年度は、新たな目標である「ビジョン2020」の開始の年として、さらに社会の隅々までキャンプを届けることを目指した1年になりました。ビジョン2020推進チームが中心となって、指導者研修会やブロック会議において、実践事例の紹介やアクションプランの共通理解をはかり、推進ロゴを策定して、ビジョン2020を推進するための基盤整備づくりを展開しました。また、今後の事業計画の方向性を明確にするために、2020年までのロードマップ（工程表）を作成しました。

キャンプの普及事業においては、指定管理者として11年目を迎えた朝霧野外活動センターが、キャンプ指導の専門性を活かし、地域に密着した事業を積極的に展開し、今年度も静岡県指定管理者外部評価委員会から高い評価を受けることができました。10月にロシアのソチで開催された第11回国際キャンプ会議には、関係者11名の参加と職員1名を派遣し、世界中から参加したキャンプ関係者と友好を深め、最新のキャンプトレンドについて情報交換を行いました。

指導者養成事業においては、これまで3月に開催してきた都道府県キャンプ協会指導者研修会を、今年度から10月に1泊2日で開催し、「ビジョン2020」の具現化をテーマに様々な研修を実施しました。指導者数の会員増強では、全国各地の野外教育団体やキャンプ場などに対し、課程認定団体への参画を呼びかけました。その結果、新たに課程認定団体に8団体の入会がありました。しかしながら、キャンプ指導者の減少傾向は歯止めが掛からず、引き続き、課題を残す結果となりました。

キャンプの質の向上をはかる事業については、第21回日本キャンプミーティングを開催、「つながる・たがやす・そだてる」をテーマに、恵泉女学園大学教授の藤田智さんお招きして、「自然と手を入れた自然（園芸）の中で～人を育てる野菜作り～」についての講演会を頂きました。また、ポスター発表やワークショップでは、多くの活動紹介や研究発表が行われ、参加者同士の活発な意見交換がありました。「キャンプ研究」やCafé de CAMPでは、キャンプに関連する新しい動きにスポットを当てて、紹介しました。「キャンプ×〇〇」でキャンプの新しい可能性に取り組むスペシャルニーズ・キャンプ・ネットワークにおいては、11月に全国フォーラムが開催され、事務局として協力することができました。

法人事務は、新たな職員体制への変更に伴い、事業内容の見直しと組織の活性化に努めました。47番目となる福井県キャンプ協会の設立に向けては、規約や規程の準備や事務手続きなどの支援を行いました。また、ブロック会議や地域連携委員会を通じて、都道府県キャンプ協会との連携と支援をはかることができました。

このように、2017年度は「ビジョン2020」に取り組むことにより、新たな活動が始まり、キャンプネットワークの広がりが感じられた1年となりました。その一方で、会員数の減少が続いており、日本キャンプ協会の運営は厳しい局面が続いています。時代は変わり、価値観が多様化する中で、世の中のキャンプに対する見方も大きく変化しています。こうした時代の変化と私たちの課題を照らし合わせ、キャンプのもつ潜在的なチカラを信じ、日本キャンプ協会の使命実現を目指し、2017年度の事業報告とさせていただきます。

ビジョン 2020 の推進に関する取組み

2017 年度は、ビジョン 2020 の 1 年目として様々な取り組みを開始した年度となりました。実施したアクションプランは、必ずしも期待する成果を得られなかったり、当初の計画が全て予定どおりに実施できた訳ではありませんでしたが、「アウトリーチ 社会の隅々までキャンプを届けよう」という私たちの想いは、新たな活動が少しずつ芽吹き始めた 1 年となりました。

1. 「キャンプの案内人(ガイド)」の養成

キャンプインストラクター養成数の維持を目指し、各団体の養成講習会の開催に協力を行いました。また、課程認定団体の会員増強に取り組み、新たに野外教育団体の入会がありました。

キャンプの楽しさや遊び心を伝える「キャンプの達人」の発掘やキャンプマイスター認定、「キャンプ指導者入門」の改訂については、次年度に課題を残しました。

- ・キャンプインストラクター養成数の維持（公益目的事業 2-1）
- ・指導者養成カリキュラムの改訂（公益目的事業 2-8）
- ・キャンプ知識、技術の継承

2. 「つながる力」「たのしむ力」「たちむかう力」を実感できるキャンププランの提案

次世代応援プランでは、出会いの少ない若者ために婚活キャンプが行われ、数組のカップルが誕生しました。多チャンネル連携プランにおいては、行政や地域住民との協力により、防災キャンプが各地で実施されました。社会的課題対応プランでは、不登校の子どもたちのキャンプ、子どもの貧困へのアプローチとして、子ども食堂の子どもたちのためにキャンプが行われました。

- ・次世代応援プラン（公益目的事業 1-3）
- ・多チャンネル連携プラン（公益目的事業 1-3）
- ・社会的課題対応プラン（公益目的事業 1-2、1-3）

3. 社会の変化に対応した意識改革の取り組み

ビジョン 2020 の推進のために、都道府県キャンプ協会指導者研修会の開催、推進ロゴの策定などを行いました。

しかしながら、この年度は、意識改革としての成果は、ほとんど見られない結果に終わりました。会員数の減少が続き、今後の会員数の予測をふまえた時、現行の事業モデルを抜本的に見直すことは、もはや避けられない状況です。時代に即した指導者養成の方法論や時間数の短縮、会員制度の見直し、会費の在り方、収入増の方策、また各県協会の運営など、今までのやり方にはとらわれず、痛みを伴うことも含め、私たち自身の意識変革の具現化が急務です。

- ・自主、自立、そして成熟へ
- ・中央発信重視から地域間発信重視へ（公益目的事業 1-8）
- ・都道府県協会と日本協会の相互関係の堅持（公益目的事業 1-3、2-5）

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業 1）

キャンプの魅力は「楽しさ」や「新しい出会い」だけでなく、「つながる力」や「立ち向かう力」といった、人と人とが触れ合うことによって、生じる感情や感覚を共感できるところにもあります。

2017 年度は、それらキャンプに備わった力が社会の中で方々に広がり、キャンプの魅力を体感する人々が増えていくことを目指し、「ビジョン 2020」の実現に向けて、国内外のキャンプ関連団体と連携し、事業の実施、情報交換をするほか、『CAMPING』や WEB サイト、メールマガジン等を通して情報発信に努めました。また、キャンプインフォメーションセンターでの相談事業や各種プログラム指導、各地域でキャンプ活動の普及を担う都道府県キャンプ協会への事業バックアップなどを継続して実施しました。

1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEB サイトやメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努めた。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者や各種メディア企業等の相談に対応するとともに、キャンプ実施などに対する支援を行った。

（1）会報誌「CAMPING」の発行

キャンプの教育的、社会的意義やキャンプの現場で役立つスキル、各地で展開されているキャンプ、本会の事業内容などの情報を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した。

発行部数：各号 約 11,000 部

号数	特 集
176	危険を見極める目
177	2016 年度事業・決算報告 -Annual Report 2016-
178	自然のチカラ
179	今どきの子ども
180	キャンプを科学する
181	今どきのキャンプ事情



会報誌 CAMPING

（2）WEB サイト及び公式 Facebook ページの運用

・WEB サイト（<http://www.camping.or.jp>）では、日本キャンプ協会の基本情報や新着情報を提供するほか、イベントカレンダーなどを活用し、都道府県キャンプ協会等が実施する事業の紹介などを行い、前年比 136% 増の閲覧者数となった。

WEB サイト閲覧者数：延べ 302,074 人

・Facebook (<https://www.facebook.com/ncaj.sns>) では、日本キャンプ協会と社会をつなぐ窓口として、公式 WEB サイトと連動した情報提供に加え、事業の様子なども交えたよりきめ細かな情報を発信した。また、併せて Facebook 上で会員交流のための「会員のひろば」グループを開設し、会員からの情報発信の場を提供した。

(3) メールマガジンの配信



メールマガジン

会員のキャンプ活動への参加機会を増やすことを目的に、イベントや研修会の開催等についての情報、助成金、人材募集などの情報を掲載したメールマガジン「CAMPING News」を積極的に発行した。

発行数：年間 17 回（3 週毎の金曜日発行）

送信数：約 3,200 件（別途 PDF 版を WEB サイトに公開）

(4) キャンプインフォメーションセンター

キャンプに関する相談窓口であるキャンプインフォメーションセンターの運営を行った。一般やマスコミなどからの電話やメールによる相談に応じたほか、都道府県キャンプ協会や他団体へ講師を派遣した。また、行政関係の指定管理施設の選考委員や他団体が行うキャンプの企画、運営、指導を行う事業も積極的に受託し、日本キャンプ協会の公益性を P R することができた。

受託一覧

クライアント	依頼内容	役割	日 時	担当（対応）
イベント製作会社	ワークショップ依頼	企画、指導	4 月	職員（五月女、吉野、前田）
中国新聞	取材協力	ソロキャンプ取材	4 月	林健児郎
番組制作会社	番組監修・出演	アウトドアでの事故事例の紹介	5 月	職員（五月女、前田）
自然公園財団	月刊誌原稿依頼	原稿執筆	7 月	吉田大郎
神奈川県観光課	芦ノ湖キャンプ村委譲先民間業者選定委員	芦ノ湖キャンプ村委譲先民間業者選定委員会	7 月	職員（依田）
Kids Diversity	キャンプ指導協力	企画、運営、指導	8 月	茨城県協会
文部科学省	イベント出展協力	子ども向け事業ブース出展	8 月	職員（五月女、秋山）
イベント制作会社	キャンプ企画依頼	親子向けキャンプ企画・指導	8 月	職員（五月女）

茅ヶ崎市	茅ヶ崎市柳島キャンプ場 指定管理選定委員	茅ヶ崎市柳島キャンプ 場指定管理選定	9 月	職員（依田）
自動車技術会	会報誌原稿依頼	原稿執筆	12 月	職員（五月女）
小学館	原稿協力	BE-PAL 内素材提供	2 月	職員（五月女）
建築コンサルタント 会社	キャンプ場監修依頼	キャンプ場リニューアル のアドバイス	2 月	吉田大郎



キャンプインフォメーションセンター受託事業

2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）

2007年4月から指定管理している朝霧野外活動センターは11年目を迎えた。2017年度は、主催事業や利用団体の受け入れ事業を通じて、多くの人々にキャンプ及び自然体験活動の機会を提供し、その活動を支援することで、キャンプ及び自然体験活動の普及に努めることができた。トピックスとしては、12月に、センター内にあるアイススケートリンクの利用者数が開設以来20万人を突破した。このことを記念してセレモニーを開催し、20万人目の利用となった2団体(ボーイスカウト富士宮5団、山宮子ども育成会リチャードクラブ)に記念品(限定うしこ缶バッジと走れば山が美しくなる！オリジナルエコバッグ)を贈呈した。また、静岡県指定管理者外部評価委員会からは今年度も高い評価をいただき、A+評価が前年度から更に増えて、2つの項目で高評価を受ける結果となった。



スケートリンク20万人記念

(1) 新たな野外活動プログラムの開発

9月には新しい自主事業として、地図とコンパスを使って行う野外活動であるナビゲーションスポーツとテント泊や野外炊事等を含むキャンプを組み合わせた「ナビゲーションスポーツ・キャンプ in 朝霧(NSCA)」を実施した。キャンプの普及を図る新たな対象として、ナビゲーションスポーツの活動者や競技者がキャンプのスキルを身につけ、その魅力を知ることができる機会を提供できた。



ナビゲーションスポーツ・キャンプ in 朝霧(NSCA)

朝霧ナビゲーションフェスティバル

朝霧マウンテンオリエンテーリング

(2) 地域との協働

朝霧野外活動センターを運営する上で、朝霧地域との関係を促進することは大切なことと言える。11月には、朝霧地域の住民や周辺施設の職員等を招いて地域懇談会を開催し、朝霧野外活動センターの運営状況を説明するとともに、センターの運営に関する意見や提言を募り、地域との協働や今後の運営の示唆を与えられた。また、国立中央青少年交流の家が推進する「静岡子ども体験フェスティバル」の開催に協力して、朝霧野外活動センターを会場に朝霧カーニバルと同日程で開催し、多くの来場者を迎えることができた。この事業は地域住民、地域の施設、県内外の青少年教育施設及び社会教育団体等の参加を得て、朝霧高原地域のイベントとしてモデル事業となっている。

(3) 健全な施設運営

施設管理においては、仕入れていた薪屋の廃業があり、キャンプ事業に欠くことのできない薪の確保に苦労した年であったが、職員が知恵をしばり協力をし繁忙期を乗り越えることができた。施設の老朽化が進む中で、安全第一を優先しながら設備の改修を進め、漏水箇所の発見や光熱費の管理の徹底を図り、全体としては大幅な経費節減を実現することができた。

＜自主事業＞

青少年自然体験事業（県委託事業）

事業名	日 程	対 象	参加者数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう 富士山～	7月 2日	小学校 5～6 年生	53 人
	8月 6日～14日	中学校 1～3 年生	

野外教育指導者養成事業（県委託事業）

事業名	日 程	対 象	参加者数
野外活動プログラム実習	4月 21日～22日	利用団体の担当者 及び指導者	71 人
	11月 10日～11日		8 人
長期キャンプ 指導者養成講習会	6月 17日～18日 7月 8日～9日 8月 6日～14日 10月 14日～15日	専門学校生 短大生 大学生	11 人
野外活動指導者養成講習会	2018 年 2月 10日～12日	野外教育に興味のある 個人、青少年団体指導者 教育関係者	22 人

県民自然体験事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
ちよつといい春感じませんか	4月 29日～30日	家族・小グループ	124 人
ナビゲーションスポーツ・ キャンプ in 朝霧	9月 9日～10日	家族・小グループ	238 人
ステキな秋をあなたに	9月 30日～10月 1日	家族・小グループ	121 人
オリエンテーリング in 朝霧	11月 25日～26日	家族・小グループ	261 人
スケートキャンプ	12月 15日～16日	家族・小グループ	54 人
	1月 12日～13日		54 人
	2月 16日～17日		61 人
	3月 2日～3日		60 人

223(ふじさん)ウォーキング	2月25日	家族・小グループ	145人
プラネタリウムと星空探訪	3月2日～3日	家族・小グループ	82人
スケートフェスティバル in あさぎり	11月5日	家族・小グループ	107人
	3月4日		165人

施設開放事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計20日 2,109人
スケート一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計24日 3,468人
朝霧カーニバル	11月5日	どなたでも	1,259人
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の 水曜日または木曜日	センター周辺の小学校 (5校)に通う児童とその 家族	計24日 556人

社会問題に対応した事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
朝霧高原ホッとキャンプ	2月13日～15日 3月6日～8日	不登校児童・生徒 引きこもりがちな青年	5人 10人

自然環境保全に配慮する事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
走れば山が美しくなる	通年 事業開催時	事業参加者	702人



ステキな秋をあなたに

利用者数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015	2,689	8,363	6,790	11,772	9,439	10,002	6,333	5,896	3,272	2,751	2,721	5,121	75,149
2016	2,915	6,756	8,337	10,936	10,278	8,066	5,803	5,213	3,420	2,614	2,727	6,270	73,335
2017	2,883	5,857	8,655	10,684	9,396	9,853	6,182	6,161	3,062	2,894	2,358	5,660	73,645
前年比	-32	-899	318	-252	-882	1,787	379	948	-358	280	-369	-610	310

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015	2,636	5,007	4,183	7,109	4,506	5,754	5,190	5,657	2,793	2,583	2,396	4,598	52,412
2016	2,744	4,581	5,639	6,794	5,636	4,714	4,982	4,984	3,006	2,450	2,475	5,755	53,760
2017	2,787	3,946	6,128	6,567	4,982	5,313	5,179	5,893	2,699	2,722	2,077	5,121	53,414
前年比	43	-635	489	-227	-654	599	197	909	-307	272	-398	-634	-346

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015	53	3,356	2,607	4,663	4,933	4,248	1,143	239	479	168	325	523	22,737
2016	171	2,175	2,698	4,142	4,642	3,352	821	229	414	164	252	515	19,575
2017	96	1,911	2,527	4,117	4,414	4,540	1,003	268	363	172	281	539	20,231
前年比	-75	-264	-171	-25	-228	1,188	182	39	-51	8	29	24	656

利用団体数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015	14	54	53	78	68	70	39	46	53	53	43	74	645
2016	24	44	63	83	76	52	35	39	56	48	42	80	642
2017	19	41	58	70	76	65	34	53	52	43	44	72	627
前年比	-5	-3	-5	-13	0	13	-1	14	-4	-5	2	-8	-15

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015	11	34	27	50	40	38	27	42	46	48	37	64	464
2016	18	26	36	53	50	29	27	34	46	45	38	70	472
2017	17	23	37	44	42	36	24	48	45	40	39	60	455
前年比	-1	-3	1	-9	-8	7	-3	14	-1	-5	1	-10	-17

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015	3	20	26	28	28	32	12	4	7	5	6	10	181
2016	6	18	27	30	26	23	8	5	10	3	4	10	170
2017	2	18	21	26	34	29	10	5	7	3	5	12	172
前年比	-4	0	-6	-4	8	6	2	0	-3	0	1	2	2

平成 29 年(2017)度 静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者外部評価委員会評価結果

総合評価 A [9 段階評価 A⁺, A, A⁻, B⁺, B, B⁻, C⁺, C, C⁻]

評価項目 ※平成 28 年度までは⑥項目別評価は設けていない。		評価ポイント		
		29 年度	28 年度	27 年度
評価の総括		A	A	A
項目別評価	①青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A ⁻	A	A
	②青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A	A	A
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A ⁺	A	A
	④学校利用への適切な対応	A	A	A ⁻
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A ⁺	A ⁺	A ⁻
	⑥安全な野外活動実施のための取組について	A		

(参考) 9 段階評価
ポイント記号の意味

記号	意 味	その他
A	十分満足できる	A B C に対し、必要に応じて+-の付加記号を付ける。
B	おおむね満足できる	
C	努力を要する	

3. 都道府県キャンプ協会の活動の支援

キャンプ指導者やキャンプの愛好者が身近な地域の情報を得ることができるよう、都道府県キャンプ協会の広報活動の支援を継続した。都道府県キャンプ協会がブロック毎に行うキャンプ事業に対して、資金的、人的なサポートを行った。

・全国レベルまたは地域密着型の啓発的活動に対するサポート

ブロック名	日程	主管協会	内容
北海道・東北ブロック	10月14日～15日	福島県	福島県キャンプ協会設立35周年記念事業（参加者41人）
関東ブロック	9月30日～10月1日	栃木県	ビジョン2020の主旨勉強会、親睦会、那須平成の森 ガイドウォーク（参加者16人）
中部・北陸ブロック	2月3日～4日	長野県	アイスブレイク、スノーシューハイキング（又は蕎麦打ち）、ヒンメリ工作、星空観察・ブロック会議、情報交換会（15人）
近畿ブロック	7月17日	滋賀県	情報交換会、ディスカッション（10人）
中国・四国ブロック	9月2日～3日	香川県	青年によるキャンプミーティング・ブロック情報交換会（33人）
九州・沖縄ブロック	11月25日～26日	大分県	九州・沖縄キャンプ大会 in 院内町（参加者29人）

・会報同封サービス（会報誌等をCAMPINGに同封して会員に安価に送付するサービス）の提供

各都道府県協会が会員に対する情報発信を行いやすくなるように、都道府県協会の会報等を「CAMPING」に同封して発送するサービスを提供し、各協会の広報活動を支援した。

利用した都道府県協会の数 24 協会 のべ発送点数 24,619 点

・WEB サイト用サーバー及び専用メールアドレスの提供

各都道府県協会にメールアドレスとウェブサーバーを提供し、インターネットを利用した情報提供、情報交換を容易に行えるよう支援した。

4. 出会いと体験の森へ第6期（他団体と共同で行う事業）

日本YMCA同盟、東京YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟、日本キャンプ協会という青少年教育団体が協力して、「出会いと体験の森へ」事業を実施した。今年度は、ボーイスカウト日本連盟が幹事団体として、茨城県高萩市に新しくオープンした「大和の森高萩スカウトフィールド」でリーダーズキャンプを行った。また、リーダーズキャンプ後に開催された、ボーイスカウト主催の自然体験教室にリーダーとして協力した。

・リーダーズキャンプ

日 時：2017 年 11 月 3 日（金）～5 日（日）

会 場：大和の森高萩スカウトフィールド（茨城県高萩市）

参加者：18 人

・高萩自然体験教室

日 時：2017 年 11 月 6 日（月）～7 日（火）

会 場：大和の森高萩スカウトフィールド（茨城県高萩市）

参加者：各日毎約 70 人（6 日：小学 6 年生 7 日：小学 4 年生及び 6 年生）



出会いと体験の森へ「リーダーズキャンプ」

5. 国外の情報の収集と提供

国際キャンプ連盟やアジア・オセアニア・キャンプ連盟等の国際ネットワークを活用して情報の収集を行い、会員をはじめ広く一般にキャンプ情報を提供した。特に、ロシア・ソチで開催された第 11 回国際キャンプ会議に日本からは 11 名が参加し、職員 1 名を派遣した。また第 2 回都道府県指導者研修会において国際キャンプ会議の報告を行った。

・第 11 回国際キャンプ会議（ICC2017）

日 時：2017 年 10 月 9 日（月）～13 日（金）

開催地：ロシア・ソチ（スキーリゾート ローザ・クトール）

テーマ：世界中の子どもたちと幸せを分かち合おう

参加者：約 1,000 人（うち日本より 12 人）



第 11 回国際キャンプ会議 in ソチ

6. 安全啓発キャンペーン

キャンプを楽しく有意義な活動とするために、一人ひとりの安全意識を高めることを目的に、7月第3日曜日の「キャンプ安全の日」を中心に、7月・8月を安全啓発キャンペーン期間として定め、安全啓発を行った

- ・キャンペーン期間：2017年7月1日(土)～8月31日(木)
- ・キャンプ安全の日：2017年7月16日(日) ※7月第3日曜日
- ・「安全なキャンプのために」の小冊子の提供

7. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

安全で楽しいキャンプを行うために、一般財団法人日本宝くじ協会からの助成金を受けて、全国の都道府県キャンプ協会にテントの配布を行った。これらのテントは、都道府県キャンプ協会が主催するキャンプ、指導者講習会、イベントなどで幅広く活用された。

配布件数：41 都道府県キャンプ協会 4種 98張



8. 研修・普及に関する事業改良の検討

2016年度に策定された「ビジョン 2020」を具現化するために、今年度は開始の年として、ビジョン 2020 推進チームが旗振り役となり、「ビジョン 2020」の理解と普及を目的に、指導者研修会やブロック会議、ロゴの策定などの基盤整備づくりを推進した。今後は、キャンプの担い手である「キャンプの案内人」の養成、キャンプのチカラと他分野とのコラボレーション「キャンプ×〇〇」による社会的な課題へのチャレンジ、私たちキャンプ協会の自己変革など、各テーマのアクションプランを具現化することが急がれる。



ビジョン 2020 推進ロゴ

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業 2）

キャンプの楽しさを伝え、その有用性を引き出し、キャンプに参加する人々の喜びと心身の成長に寄与することのできるキャンプ指導者の養成は、これからもキャンプ協会の大切な事業です。

2017 年度は、幅広い指導者養成への門戸を開いていくことを実行するために、地域で活動する野外教育団体との連携強化を目指し、課程認定団体の増強に取り組みました。また、キャンプディレクター養成テキストの改訂により、キャンプディレクター2 級養成講習会のてびきを作成し、養成講習会の運営や広報支援を推進しました。しかしながら、指導者数の減少傾向には歯止めが掛からず、今後も継続して対策を講じることが喫緊の課題となっています。

1. 公認指導者養成

（1）キャンプインストラクター養成講習会（課程認定団体 A・B・C 団体による実施）

都道府県キャンプ協会(A団体)による養成数	521 人
課程認定校・社会教育団体等(B・C団体)による養成数	1,639 人
合 計	2,160 人

- ・2,500 人の養成目標に対し 2,160 人の養成が行われ、達成率 86.4%であった。
- ・昨年の養成数 2,341 人と比較し、181 人減少している。

（2）キャンプディレクター2 級養成講習会

【A 団体による実施】

主催県	日 程	受講数	会 場
埼玉県	5 月 19 日(金)～21 日(日)	2 人	埼玉県立長瀬げんきプラザ (埼玉県秩父郡長瀬町)
秋田県	10 月 7 日(土)～9 日(月)	3 人	秋田県仙北市水沢温泉「友情苑」 (秋田県仙北市田沢湖)
岡山県	12 月 1 日(金)～3 日(日)	5 人	カリヨンハウス(岡山県瀬戸内市牛窓町)
兵庫県	11 月 3 日(金祝)～5 日(日)	9 人	兵庫県立いえしま自然体験センター (兵庫県姫路市家島町西島)
東京都	11 月 3 日(金祝)～5 日(日)	10 人	ヒゲッチキャンプ場 (埼玉県児玉郡神泉村)
奈良県	1 月 6 日(土)～8 日(月祝)	2 人	国立曽爾青少年自然の家 (奈良県宇陀郡曽爾村)
群馬県	2 月 10 日(土)～12 日(月祝)	6 人	県立東毛青少年自然の家 (群馬県太田市藪塚町)
千葉県	2 月 10 日(土)～12 日(月祝)	12 人	千葉市少年自然の家 (千葉県長生郡長柄町)
大阪府	2 月 10 日(土)～12 日(月祝)	4 人	吉野宮滝野外学校 (奈良県吉野郡吉野町)

【B団体による実施】

団体名	受講数
北翔大学	10 人
国際自然環境アウトドア専門学校	12 人
常葉大学	4 人
仙台大学	5 人
大阪体育大学	2 人
筑波大学 野外運動研究室	2 人
福岡大学スポーツ科学部	9 人
国際武道大学	1 人

(3) キャンプディレクター1 級養成講習会（日本キャンプ協会による実施）

日程	受講数	会場
11 月 23 日(木)～25 日 (土)	13 人	国立オリンピック記念青少年総合センター

(4) キャンプディレクター1 級検定会（日本キャンプ協会による実施）

日程	受検数	会場
1 月 20 日(土)～21 日(日)	9 人	国立オリンピック記念青少年総合センター
2 月 3 日(土)～4 日(日)	6 人	神戸市青少年会館（兵庫県神戸市）



キャンプディレクター1 級養成講習会

2. キャンプ指導者の審査・認定及び更新

【資格申請者の審査・認定】

資格名 認定日	キャンプ インストラクター	キャンプ ディレクター2級	キャンプ ディレクター1級
4月28日		3	8
6月30日		12	1
8月28日		1	3
9月21日		6	
11月17日		7	
12月14日		3	1
1月26日		8	
2月23日		15	8
3月26日		20	3
合計(人)	2,160	75	24
目標人数	2,500	70	30

【指導者資格（インストラクター・ディレクター）の更新】

目標人数 7,600 人

キャンプ インストラクター(CI)	キャンプ ディレクター2級(D2)	キャンプ ディレクター1級(D1)	合計(人)
4,063	1,537	1,038	6,638

※ 2016年度 CI : 4,311 人、D2 : 1,626 人、D1 : 1,060 人、合計 6,997 人

課程認定団体数

(単位：団体)

A団体	B団体	C団体
46	117	6

課程認定団体の審査・認定

新規課程認定団体目標数 10 団体

	審査会日程	課程認定団体名
1	4月3日	C団体 広島YMCA野外教育センター（広島県）
2	4月3日	B団体 大原スポーツ公務員専門学校 山形校（山形県）
3	4月19日	B団体 大原簿記公務員医療福祉保育専門学校 立川校（東京都）
4	8月28日	B団体 日本大学 スポーツ科学部（東京都）
5	2月20日	B団体 長崎国際大学（長崎県）
6	2月20日	C団体 一般社団法人のあつく自然学校（大阪府）
7	2月20日	C団体 おにし青少年野外活動センター（群馬県）
8	3月22日	C団体 特定非営利活動法人ナック（大阪府）

3. 課程認定団体向け研修会

課程認定団体指導者養成担当者を対象に、カリキュラムに則った養成が行えるよう研修会を開催した。この年度は、改訂したキャンプディレクター必携について指導方法の解説を行った。研修会後半では、各課程認定団体別のグループに分かれて、研修会の運営について情報交換と交流を深めた。

日 時：2017年4月29日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者：36団体（40人）

4. 指導者養成のためのテキスト販売

指導者養成テキスト「キャンプ指導者入門」「キャンプディレクター必携」の販売管理を行った。

5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会

全国の都道府県キャンプ協会の実務を担当する指導者が集まり、それぞれの協会の状況等を共有し、継続的な指導者養成、協会運営を可能にするための研修を行った。今年度は、事務的な研修会に加え、「ビジョン2020」の実践事例の報告、基金申請のツボ、旅行業法などの研修を実施した。

日 時：第1回 2017年6月11日(日)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者：76人

日 程：第2回 2017年10月28日(土)～29日(日)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者：86人



第2回都道府県キャンプ協会指導者研修会

6. 都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業等の承認及び支援

キャンプスキルのアップと指導者の交流を目的に実施する事業のうち、所定の条件を満たすものを BUC (Brush Up & communication) 事業と認定し、必要に応じて支援を行った。

年度	BUC 事業数	参加登録者数	実施事業協会数※
2017	138	1,310	46
2016	129	1,288	45
2015	132	1,454	42

※実施協会数には日本キャンプ協会を含む

7. 公認資格取得機会拡大につながる取り組み（課程認定団体規程の改訂）

日本キャンプ協会公認指導者資格の取得機会を拡大するため、課程認定団体規程の改定を行い、課程認定団体の増強に向けた取り組みとして、全国の NPO 団体及び野外活動施設へ広報を行った。

発送数：1,073 通

8. 指導者養成制度改良に向けた検討

キャンプディレクター2級養成制度の変更を受けて、『キャンプディレクター必携』テキストの改訂とてびきの作成を行い、今年度からキャンプディレクター2級養成講習会で運用を開始した。



Brush Up & Communication 事業

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）

キャンプの普及を進めるためには、キャンプや指導者の質を高めることが、常に求められます。そのためには、指導者自身が新たな実践や専門的な研究結果に学ぶことが重要です。

2017年度は、キャンプ関係者が、キャンプ実践や研究を持ち寄り、参加者同士が学びあう機会を提供しました。また、キャンプというフィールドだけに限定せず、「ビジョン 2020」で示された「アウトリーチ」の可能性を意識して、異業種の個人や団体との協働によって、新しい分野への挑戦に踏み出した年となりました。

1. Camp Meeting in Japan 2017 の開催 ～第 21 回日本キャンプミーティング～

21 回目を迎えた日本キャンプミーティングは、様々な地域、分野、立場で活躍しているキャンプ関係者が集い、日頃の実践や研究の成果を発表し、参加者間の情報交換や情報共有ができる機会として定着してきている。

日 時：2017 年 6 月 10 日（土）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

発表者：21 人

参加者：68 人

[講演会]

自然と手を入れた自然（園芸）の中で ～人を育てる野菜作り～

講 師：藤田智さん（恵泉女学園大学）



第 21 回日本キャンプミーティング

[ポスター発表]

研究・実践発表 11 題

キャンプにおけるボランティアマネジメントの日本と海外の比較調査
キャンプにおけるふきだし法の有用性について
大正時代から昭和時代戦前期における社会事業の組織キャンプ
スペシャルニーズキャンプへのボランティア参加による知的障がい者に対する態度変容
スペシャルニーズキャンプの学生ボランティアにおける自己効力感の変化
わが国の冒険教育の動向から探る現代的課題について
キャンプにおけるバーベキュー食材の新たな有効性
森の幼稚園など自然保育にキャンプの知識と技術をどのように活用するか
少年サッカーチームを対象とした継続型キャンプの実践事例
第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会 (A0CC2016) 報告
大学間交流スキーキャンプの取り組み

団体・活動紹介等 3 題

スペシャルニーズ・キャンプ・ネットワーク
「出会いと体験の森へ」実行委員会
北海道キャンプ協会若手指導者団体「えぞっふ」

[ワークショップ発表] 6 題

組織キャンプにおけるチャイルド・プロテクションについて
YMCA 三浦ふれあいの村防災ウォークラリーの取り組み
ハチ・ヘビ・マダニ・ヤマビル・毛虫 etc... 危険生物を楽しく学ぶ 野外教育者のための危険生物クイズ大会！
キャンプでのクラフト
「違いを祝福し、違いを喜ぶ。」 キャンプロイヤル体験報告
「アイスブレイク十人十色 ～みんなの十八番、大交換会！～」

抄録集：1,400 部発行 参加者及びキャンプディレクター1 級指導者へ郵送

2. 定期刊行物『キャンプ研究』

会員の研究や活動の発表のひとつ機会として、また、キャンプ関係者への情報提供を目的として、『キャンプ研究第21巻』を発行した。キャンプディレクター資格保有者に冊子を配布するとともに、PDF版をWEBサイトで公開し、広く一般にも読まれるよう公開した。

研究論文

キャンプ実習における大学生の資質能力の変容

ーふきだし法による自由記述の分析を通してー(藤川和俊・泉敏郎)

大学運動部に対するASEプログラムが集団凝集性に及ぼす影響

ー新入生と在学生の比較からー

(徳田真彦・伊原久美子・加藤佑一・高橋宏斗・久田竜平・田渕洋勝・飯田輝)

報告

第21回日本キャンプミーティング講演会

自然と手を入れた自然(園芸)の中で ～人を育てる野菜作り～(藤田智)

特別寄稿

野外救急法を取り巻く最新の動向

(寺田達也・柏澄子・佐藤初雄・溝手康文・稲垣泰斗・岡村泰斗・河波弘晃・稲垣尊仁・

島崎晋亮・小清水哲郎・山本康之)

発行日：2018年2月15日(木)

発行数：2,850部(別途PDF版をウェブサイトで公開)



3. Café de CAMP（カフェ・デ・キャンプ）の開催

キャンプに関心がある人たちが集まり、講師を囲んで自由に意見交換を行い、学びあう場として Café de CAMP を開催した。参加人数の確保には毎回苦労はあるが、参加者の満足度は高い結果となっている。引き続き、気軽に参加できて、充実した内容のキャンプイベントとして育てたい。

回	日程	テーマ	参加者
1	11月18日(土)	雨プロでも使える！自然観察プログラムから考える効果的な広報と企画のつくりかた	5人
2	12月3日(日)	簡単おしゃれキャンプ料理／スマホ写真テクニック	9人
3	1月28日(日)	「キャンプ指導者入門」を読む！	7人
4	2月15日(木)	救急セットの中身が気になる人のための「マイ救急セット」講座	12人

※ 会場：第1回 プラムネット(株)セミナールーム

：第2回 小金井公園BBQ場

：第3・4回 国立オリンピック記念青少年総合センター



Café de CAMP（スマホ写真×驚き！キャンプ飯）

4. Special Needs Camp に関する調査研究とその周知に関する事業

昨今、Special Needs Camp（スペシャル・ニーズ・キャンプ）の可能性は、様々な異なる分野とコラボレーションするかたちで広がりをみせている。今年度は、11月に SNCN（スペシャル・ニーズ・キャンプ・ネットワーク）の全国フォーラムが東京で開催され、CAMPING や WEB で広報活動の協力や事務局への支援を行った。

法人事務

本会の事業が適正に行われるよう、また都道府県キャンプ協会及び関係団体との円滑な協働が図れるよう、必要な日常業務を行った。

1. 諸会議

会議名	回数	日程・会場等
定時社員総会	1	6月10日
理事会	2	5月20日・3月10日
監査	1	5月18日
執行理事会	5	4月21日・6月30日・9月21日・12月14日・1月26日
ブロック会議	8	全ブロック 6月11日・10月29日 東京(NYC) 近畿ブロック 7月17日 滋賀県草津市 中国・四国ブロック 9月2日～3日 香川県坂出市 関東ブロック 9月30日～10月1日 栃木県那須郡 九州・沖縄ブロック 11月25日～26日 大分県宇佐市 北海道・東北ブロック 10月14日～15日 福島県安達郡 中部・北陸ブロック 2月3日～4日 長野県阿智村

運営委員会・タスクチームミーティング

会議名	回数	日程・会場等
ビジョン2020推進タスク	1	10月28日～29日（都道府県協会指導者研修会）
CAMPING編集タスク	4	5月30日・8月30日・12月4日・3月7日
指導者養成委員会	3	4月14日・7月7日・10月23日
キャンプミーティング実行委員会	3	4月21日・6月10日・3月8日
地域連携委員会	2	8月27日・2月25日
総務委員会	2	11月28日・1月26日（執行理事会と同時開催）

※ 特に表記のない場合、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)で実施

その他の会議

会議名	回数	日程・会場等
事務局会議	12	月1回(原則第4木曜日)
出会いと体験の森へ実行委員会	4	4月19日・6月27日・10月5日・1月30日 (ボーイスカウト日本連盟)
中央青少年団体連絡協議会(世話人会)	7	12月12日・12月25日・1月8日・1月11日・ 1月23日・2月8日・3月14日

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程・会場等
所長会	9	4月7日・5月19日・7月5日・9月12日・10月5日 11月17日・12月7日・1月10日・3月9日
主席会	4	4月7日・6月21日・10月26日・2月27日
県庁合同会議	1	4月7日
安全対策委員会	3	6月18日・10月6日・1月15日(臨時)
静岡県監査	2	12月6日(予備監査)・1月26日(本監査)
外部評価委員会	1	3月7日(評価伝達式)
東海北陸地区青少年教育施設 協議会研修会	1	11月9日～10日
静青施協合同職員研修会	1	11月16日～17日
地域懇談会	1	11月17日
食堂定期協議会	7	5月2日・13日・6月8日・10月17日・11月17日 12月22日・1月11日
静岡市自然の家運営委員会	2	7月3日・8月3日
社会教育(新任・関係者)研 修会	2	7月5日・9月19日～20日
「体験の風をおこそう」推進 事業実行委員会	2	7月21日・1月17日

2. Monthly Report

キャンプ協会の関係者を対象に、キャンプ協会に関する情報共有を目的とした Monthly Report を月 1 回(計 12 回)発行した。新たにキャンプウェブサイトのコーナーを開設して、「ビジョン 2020」に関連するインターネット上のキャンプ情報の紹介を行った。

3. 日常法人業務

円滑な事業推進のため、以下の日常業務を行った。今年度は会員管理システムのソフトウェアの耐用年数経過と会員管理業務の効率化を図るため、会員管理システムのクラウド化を行った。これにより導入コスト及びランニングコストの削減を図れた。また、来年度 5 月の設立に向け準備を進めている福井県キャンプ協会設立準備委員会への支援として、規約や規程の作成のアドバイスや支援をおこなった。

法人事務主な業務

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／助成金事務／人事管理／諸規定(程)の整備／内閣府への各種報告／他団体との渉外窓口

4. 各種団体等への協力・共催・後援

団体名	事業名	種別
(公財)修養団	S Y D ボランティア奨励賞(第 12 回)	後援
(公財)修養団	S Y D きらめきメッセージ全国コンクール(第 3 回)	後援
(公財)修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
(公財)修養団	幸せの種まきキャンペーン(出張講座／課外授業)	後援
(公財)修養団	子ども自然体験キャンプ (全国 6 会場)	後援
(公財)修養団	東日本大震災仮設住宅訪問 青少年ふれあいボランティア	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・アクション in 福島	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フェスティバル	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フォーラム	後援
石川県キャンプ協会	第 23 回キャンプインストラクター養成講習会	
学研エデュケーショナル	学研塾グループ・サマーキャンプ	後援
石川県キャンプ協会	キャンプスタッフ養成講習会	後援
(NPO) 東京都キャンプ協会	東京キャンプフェスティバル 2017	後援
(公財)横浜市体育協会	平成 29 年度横浜市アウトドアリーダー講座	後援
カー・ハンダーツ京都講演会	カー・ハンダーツ京都講演会	後援
(公財)日本教育科学研究所	アウトドアゲーム指導法講習会	後援
岩手県キャンプ協会	第 44 回キャンプインストラクター養成講習会 及び平成 29 年度親子キャンプ	後援
(公財)日本レクリエーション協会	第 71 回全国レクリエーション大会 in 北海道	後援
大阪府キャンプ協会	2017 年度「リスクマネジメント・セミナー」	後援
秋田県キャンプ協会	ファミリーキャンプ 2017 in 大館	後援
山梨県キャンプ協会	第 2 回親子で楽しいキャンプ生活体験	協力
(NPO) 千葉県キャンプ協会	ちばシティ サバイバルキャンプ	後援
石川県キャンプ協会	いしかわキャンプフェスティバル	後援
大分県キャンプ協会	第 5 回九州・沖縄キャンプ大会 in 院内町	後援
福岡県キャンプ協会	2017 福岡県キャンプ大会 in 北九州	後援
福島県キャンプ協会	福島県キャンプ協会設立 35 周年記念事業	後援
(公財)大阪 Y M C A	Y M C A キャンプ 100 周年記念事業	後援
スパシャルニース・キャンプ・ネットワーク	スパシャルニース・キャンプ・フォーラム	後援
福岡県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
秋田県キャンプ協会	チャレンジスノウキャンプ	後援
岩手県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
広島県キャンプ協会	リスクマネジメントセミナー	後援

CAMPING AWARD 2017 受賞者（16 人、1 団体）

相馬 宏哉 氏

北海道キャンプ協会 顧問

北海道キャンプ協会は平成 4 年 6 月、キャンプを通じて、道民の心身の健康増進を図ると共に、人と自然の調和を求め、合わせて、キャンプのあり方を探求することを目的に設立されました。

相馬宏哉さんは、協会設立当初より副会長として、組織の基盤作りに奔走し、現協会の礎を築かれました。また、「全道キャンプ事業研究協議会」や「ジャパンキャンプアクセス '95 イン北海道」「全国シニアキャンプイン北海道」の開催等、北海道におけるキャンプ活動の普及・振興、指導者養成にも力を注がれてきました。平成 27 年度より当協会の顧問に就かれ、現在もキャンプ活動および青少年の健全育成活動に大きく貢献されております。

（推薦団体：北海道キャンプ協会）

木村 博 氏

一般社団法人宮城県キャンプ協会 副会長

平成 10 年 10 月 17 日に設立した宮城県キャンプ協会の設立発起人の一員として尽力され、設立以降は、事業担当理事として協会の運営に携わってこられました。特に、平成 11 年から 14 年における国営みちのく杜の湖畔公園主催のオートキャンプ大会の現地管理業務受託に際して、事業実施ディレクターとして実施内容の充実を提案し、キャンプイベントを通じて、キャンパーに安全な楽しいキャンプを伝えることで県内におけるキャンプの普及・振興に大きく寄与し、宮城県キャンプ協会の認知度の向上に貢献されました。平成 14 年度に副会長兼事務局長に就任、協会の運営及び事業実施の牽引役として手腕を発揮し、会員の研修や交流を重視した姿勢は、多くの会員から信頼を得ています。同時に、広範な人的交流を以て、関係機関や団体等との渉外対応にその力を発揮し、円滑な連携・協力関係の構築に優れた功績を残されました。また、平成 25 年 12 月の一般社団法人に移行する際には、財務担当理事に就任し、法人団体としての健全な財政運営を堅持し、現在は副会長として重責を担い、協会運営を支えています。

（推薦団体：一般社団法人宮城県キャンプ協会）

小関川 均 氏

秋田県キャンプ協会 副会長

1994 年 4 月、秋田県キャンプ協会設立当初からのメンバーであり、理事として長年にわたり、秋田県キャンプ協会の運営を支えるとともに、キャンプの普及、発展に貢献されました。2016 年からは副会長に就任、協会のまとめ役として会員に慕われる存在となっております。協会事業では、特にファミリーキャンプやキャンプインストラクター養成講習会などでのクラフト指導で手腕を発揮し、その技術とセンスは卓越したものとして、会員からも「師匠」の称号を与えられるなど、若手指導者の目標となる存在です。

（推薦団体：秋田県キャンプ協会）

大久保 博之 氏

学校法人リリー文化学園 理事長

茨城県キャンプ協会の前会長として、キャンプの普及と発展に貢献されました。幼少期における野外活動を行うことを大切と考え、積極的にキャンプの企画運営を行い、自らが運営する学園内の保育園や幼稚園で行っている学童保育で毎年特別プログラムとしてキャンプを実施し、その内容も

工夫を凝らしたもので、子どもたちから慕われています。また、自らも率先してキャンプを盛り上げるために、現場に立ち続けています。さらに、キャンプ指導者としては、学園内の専門学校に通う学生に社会体育としてのキャンプの重要性を説き、全員に資格取得を義務付けました。そこで身につけた知識や技術は卒業して社会体育の現場で役立てられています。

(推薦団体：茨城県キャンプ協会)

高橋 淳 氏

栃木県キャンプ協会 副理事長

キャンプネーム「じゅんぺい」こと高橋 淳さんは、指導力・実践力を兼ね備え、長く理事・事務局長として協会の発展に貢献されております。平成 24 年、日本キャンプ協会の公益法人化に伴い、県協会の規約改正など一連の手続きを淡々と処理し、新任事務局長として手腕を発揮されました。県協会の夏の看板事業「自然生活体験キャンプ」に誘われ、親子で参加したことが、キャンプにのめり込むきっかけになった、と伺っています。以来、キャンプカウンセラーからディレクターまで、すべてのスタッフを歴任し、キャンプになくてはならない存在となっています。

(推薦団体：栃木県キャンプ協会)

赤澤 晃 氏

NPO法人千葉県キャンプ協会 元理事

1970 年代から京都キャンプ協会の会員として活動し、京都キャンプ協会事務局長としての働きの後、2005 年、千葉市少年自然の家所長の職に就くとともに、千葉県キャンプ協会に移籍。2012 年から NPO 法人千葉県キャンプ協会の理事として、事業運営の中核的な役割を担い、千葉市少年自然の家（共催千葉県キャンプ協会）主催のキャンプインストラクター養成講習会では、所長在職中 12 年間に渡り、講習会の運営及び講師として、千葉県キャンプ協会の事業に多大な貢献をされてきました。長い指導歴の証しとして、昨年 10 月の日本キャンプ協会設立 50 周年式典では、永年継続会員として感謝状が贈呈されました。

(推薦団体：NPO法人千葉県キャンプ協会)

仁平 勝己 氏

NPO法人東京都キャンプ協会 元会報誌編集委員

学生時代にキャンプと出会って以降、特にキャンプソングリーダーとして、子どもたち、指導者向けに広くキャンプソングを通してキャンプの楽しさを伝えることに現在も尽力されています。自作のキャンプソングは 200 曲以上、2008 年にはキャンプソング CD を作成し、希望する全国の指導者へ配布されました。養護施設のボランティアから始まり、日本児童遊戯研究所を経て現在では日本児童野外活動研究所のキャンプに参加、キャンプソングを歌う会「土と風と水の会」を作り、現在で 30 年になります。市川市や足立区においてジュニアリーダー育成事業に従事し、様々なイベントや事業でコンサートを行い「じんぺい」の愛称で親しまれ、ファンと一緒に歌って楽しむ機会を設けています。東京都キャンプ協会においては、2001 年から終刊までの 17 年間に渡り、会報誌「CAT/LETTER」の編集委員を務め、キャンプソングや遊びの楽しさを紙面で普及する活動を行ってきました。

(推薦団体：NPO法人東京都キャンプ協会)

川村 協平 氏

山梨県キャンプ協会 会長

山梨県キャンプ協会は、2009 年 3 月に国内では 45 番目の県協会として発足致しました。発足当

初より、会長として、県協会の運営を牽引されています。また、県内のみならず、国内外においても野外教育、幼児教育の第一人者として活躍されています。「北杜市白州町」と言う自然豊かな環境の中にある、個人所有の古民家を県の主催事業を開催するたびにご提供頂いております。発足 10 周年の節目の年を目前に致しまして、私たち、山梨県キャンプ協会の理事の総意としまして、川村協平先生をキャンピングアワードに推薦申し上げる次第です。

(推薦団体：山梨県キャンプ協会)

角替 弘志 氏

静岡県キャンプ協会 顧問・前会長

平成 10 年 4 月の静岡県キャンプ協会設立から 18 年間にわたり、初代会長として同協会の礎を築いてくださいました。平成 28 年 5 月からは顧問として、引き続き同協会を大所高所からご指導くださっております。その間、静岡大学教育学部長、常葉学園大学（現常葉大学）学長などの重職の中、生涯学習・社会教育関係をはじめとする幅広いネットワークを駆使され、静岡県におけるキャンプ指導者養成に多大な貢献をされました。静岡県立朝霧野外活動センターの指定管理者（グループ）（平成 19 年度より）の構成団体の 1 つとして同協会を推進されたことも大きなご功績の 1 つです。平成 25 年秋には長年のご功績が認められ、瑞宝中綬章を受章されました。

(推薦団体：静岡県キャンプ協会)

藤井 三弥子 氏

愛知県キャンプ協会 前理事長

大学生の時からアサヒキャンプ名古屋にキャンプカウンセラーとして活躍し、大学卒業後も特に障がいを持った子どものキャンプ活動の支援に長く関わって来られました。その経験を活かして愛知県キャンプ協会の設立当初から、若いキャンプ指導者の交流・スキルアップに貢献されました。愛知県キャンプ協会を始め他県の指導者研修会においても、キャンプカウンセリング技術や対象者理解についての講師を務めるなど、指導者の育成に長年に渡り貢献されています。愛知県キャンプ協会の役職としては 1991 年以降、理事の任に継続して付いており、25 年以上にわたり協会運営に携わっています。特に 2011 年からは、理事長として組織運営の改革に大きく寄与されました。

(推薦団体：愛知県キャンプ協会)

一般財団法人 大阪市青少年活動協会

戦後の混乱期、青少年の健全育成に組織キャンプが奨励されるなか、団体の前身がすでに 1951 年には「大阪市教育キャンプ場」を開設されました。1975 年、財団設立と同時に指導者養成に着手し、広い視野と理論に裏打ちされた、深い人間性を備えた指導者の育成を理念に、1977 年に「大阪市青少年活動リーダーズスクール」を開始し、運営の基本である 3 つのねらい、「明確な目標」があること、「年間を通じての学習組織」があること、「系統的なカリキュラム」での学習であること。大規模施設運営を基盤に多彩な事業展開を進めながら、リーダーズスクール修了生を「リーダーバンク」に登録し実践の場を提供し、指導者派遣にも応え続けています。大阪市からの事業受託終了後も大学生ボランティアリーダーの育成と運用を継続し、大阪の組織キャンプ活動の中核として、また、本日お越しの佐野学さんは、大阪府キャンプ協会の常任理事として、ネットワークの一翼を担っています。

(推薦団体：大阪府キャンプ協会)

西 由紀美 氏

奈良県キャンプ協会 理事

大学時代に奈良 YMCA でボランティアリーダーとして活躍され、卒業後、奈良県立野外活動センターやアサヒキャンプ、東大阪市立野外活動センターで職員として青少年育成に従事されて来られました。西さんは、キャンプ協会の資格だけでなく、自然に対する造詣が深く、日本シェアリングネイチャー協会や日本自然保護協会等にも指導者として所属され、韓国 ECO ART CAMP や台日青少年文化交流キャンプなど、国や行政関係の施設や各種団体が実施するキャンプに数多く、講師やスタッフとして活躍されています。2002 年には北極圏に行かれるなど好奇心旺盛な方です。

また、奈良県キャンプ協会設立当初から協会の指導者養成の理事として、運営に多大な貢献をされており、今後の県下の青少年健全育成に活躍が期待されています。

(推薦団体：奈良県キャンプ協会)

波田 篤男 氏

島根県キャンプ協会 理事

昭和 47 年から地域のキャンプ活動に積極的に関われ、平成 8 年島根県キャンプ協会の西部支部としての「石西キャンプ協会」の設立に当たって中心的な役割を果たされました。特に島根県西部地区の小学生を対象にした教育キャンプにおいて、地元自治体・教育委員会との密接な連携を図った企画・運営に当たられ、島根県西部地方にキャンプ活動の輪を上げられました。その後、D2・D1 資格を取得され、引き続き地域の青少年の健全育成のための教育キャンプの企画・運営に中心的な役割を果たしておられます。また、島根県キャンプ協会の常任理事として、インストラクター養成事業、BUC 事業にも積極的に取り組んでおられ、平成 27 年度（公社）日本キャンプ協会の地域支援活動の運営にご尽力いただきました。開会式でキャンプ関係者の発展を願って「石見神楽」を舞われたのは記憶に新しいところです。永年の経験豊富な指導は本県協会にとっても大変貴重な財産であり、後輩への技術継承などの任務に今後もますます活躍が期待されています。

(推薦団体：島根県キャンプ協会)

勝部 公平 氏

岡山県キャンプ協会 副会長

岡山県キャンプ協会結成以前から「ゼンセン中央教育センター・友愛の丘センター」において、キャンプ指導や人材育成に努められ、平成 19 年にセンター長で定年を迎えられました。友愛の丘キャンプ場は、平成 10 年岡山設立式典以後も毎年「森のキャンプ」のメイン会場として使用して岡山県キャンプ協会主催キャンプになくしてはならない施設に育っています。定年後は、地元で「森の育て親・建部」事務局長、「たけべ新聞発行編集長」の要職を務めるとともに、今年 6 回目となる「重症心身障害児療育キャンプ」を立ち上げるなど、地域や福祉とキャンプを繋げるために多大な貢献をされています。

(推薦団体：岡山県キャンプ協会)

音成 浩子 氏

福岡県キャンプ協会 副会長

福岡県における野外活動に関する女性指導者の草分け的存在で、登山、スキー、キャンプなど、多彩な分野にわたる 50 年に及ぶ指導経験を通して、多くの後継者を育ててこられました。キャンプ指導者としての活動は、昭和 40 年代に高体連の夏季キャンプにスタッフ参加したことに始まり、福岡県キャンプ協会の前身となる組織では、理事、指導委員長を務めました。昭和 50 年に、故音成彦始郎氏とともに私設のキャンプ場を開き、専門学校、看護学校などの学生を対象としたキャン

プの指導に力を注ぎ、多い時期には、毎年、100 人を越える初級指導者を養成し、県キャンプ協会の組織強化に大きく貢献されました。この間、福岡県で開催された二度の全国大会の開催に参画し、その後も、福岡県が 10 年間にわたって実施した長期移動キャンプや、福岡市が 20 年以上継続して実施している夏季キャンプの指導にあたるなど、キャンプ活動による児童の健全育成や、実践を通じたキャンプ指導者の育成に貢献されています。

(推薦団体：福岡県キャンプ協会)

吉浦 啓一郎 氏

佐賀県キャンプ協会 副会長

1960 年、中学 3 年で参加した「第 2 回多久市教育キャンプ」でスタッフの献身的な姿に感動し、1966 年に青少年育成支援団体多久市児童愛護班に入班し、以後、毎年夏休みにキャンプスタッフとして参加され、キャンプに親しんでいます。1977 年に日本キャンプ協会初級指導者となり、その後、上級指導者資格を取得。50 年以上に渡り、キャンプ指導を続ける県内のキャンプ指導者としては草分け的存在です。1994 年に佐賀県キャンプ協会設立に伴い、理事に就任。2016 年から副会長となり現在に至ります。多久市議会議員（4 期）、同副議長（1 期）、多久市体育協会理事長、公益財団法人孔子の里常務理事などを歴任。現在、多久市文化連盟の会長を務められています。2014 年春の叙勲で、旭日双光章を受章されました。

(推薦団体：佐賀県キャンプ協会)

渡口 政明 氏

沖縄県キャンプ協会 事務局長

那覇市市役所職員在職中からボーイスカウトに関わり、数えきれない位の野外活動（特にキャンプ）を沖縄の子ども達に指導してこられました。ボーイスカウト登録歴 35 年の間には、隊長・BS 県連トレーナー・BS コミッショナー・BS 県連事務局長等の指導的役員を約 30 年間歴任し、特に大きなキャンプとしては 4 年毎に開催される「BS 世界ジャンボリー」の派遣隊隊長として 3 回関わり、キャンプのノウハウを大いに発揮されました。キャンプ協会登録歴は 17 年、沖縄県キャンプ協会の事務局長に就任し、現在まで 7 年、協会の運営はもとより、事業の企画～運営・実施・事務処理まで、献身的に関わって頂きました。これまで培ったキャンプ経験を、沖縄県キャンプ協会の目的達成・発展の為、今後も大いに期待しております。

(推薦団体：沖縄県キャンプ協会)



公益社団法人日本キャンプ協会 2016・2017 年度 役員

(2018 年 3 月 31 日現在)

名誉会長	酒井 哲雄	元頌栄保育学院 理事長
顧問	斉藤 保夫	元城西大学教授
顧問	富岡 幸生	元(一財)日本健康開発財団 専任講師
顧問	野間口 英敏	元東海大学 教授
顧問	長谷川 純三	(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長
顧問	野澤 巖	元埼玉大学 教授
顧問	永吉 宏英	元大阪体育大学 学長
顧問	石田 易司	元桃山学院大学 副学長
顧問	吉田 大郎	元(公社)日本キャンプ協会 事務局長
会長	星野 敏男	明治大学 教授
副会長	鳥井 信吾	サントリーホールディングス(株) 代表取締役副会長
専務理事	神崎 清一	(公財)日本 YMCA 同盟 総主事
常務理事	平田 裕一	至学館大学 副学長
常務理事	藤枝 隆	東京農業大学 入試センター長
理事	木村 公一	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長
理事	重住 恭子	(公社)ガールスカウト日本連盟理事・国際コミッショナー
理事	鈴木 由美	女子美術大学非常勤講師
理事	高野 孝子	(NP0)エコプラス 代表理事
理事	高橋 聡美	防衛医科大学校 教授(医師)
理事	野口 和行	慶應義塾大学 准教授
理事	針ヶ谷 雅子	明治大学 兼任講師
理事	平野 吉直	信州大学 副学長
理事	柳下 史織	(公財)東京 YWCA 青少年育成事業部マネージャー
理事	逸見 博幸	秋田県キャンプ協会 副会長 (東北・北海道)
理事	分島 修一	神奈川県キャンプ協会 理事 (関東)
理事	吉田 理史	長野県キャンプ協会 理事 (中部・北陸)
理事	高見 彰	兵庫県キャンプ協会 会長 (近畿)
理事	仲野 寛	島根県キャンプ協会 会長 (中国・四国)
理事	上野 隆生	大分県キャンプ協会 理事 (九州・沖縄)

理事 以上 20 人

監事	井上 透	岐阜女子大学 教授
監事	小田原 一記	(公財)日本レクリエーション協会 事務局長
監事	佐藤 初雄	(NP0)国際自然大学校 理事長

監事 以上 3 人

公益社団法人日本キャンプ協会 2016・2017 年度 運営委員

(2018 年 3 月 31 日現在)

ビジョン策定委員会・ビジョン推進タスクチーム*

今井 正裕*	(一財)大阪府青少年育成財団 事業部長
小森 伸一	東京学芸大学 准教授
月橋 春美	宇都宮短期大学 教授
藤枝 隆*	関東ブロック (NPO) 東京都キャンプ協会
田丸 良明*	中部・北陸ブロック 石川県キャンプ協会
大天 嘉行*	中国・四国ブロック 岡山県キャンプ協会
野口 和行	慶應義塾大学 准教授
引間 紀江*	(独法)国立女性教育会館 専門職員
高見 彰(担当理事)*	大阪国際大学 教授

CAMPING 編集タスクチーム

青木 康太朗	(独法)国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員
翠尾 由美	麻布子ども中高生プラザ
野口 和行	慶應義塾大学 准教授
山梨 雄一	(公財)東京 YMCA 職員
吉田 理史	S A T O Y A M A そだち 代表
吉松 梓	新潟医療福祉大学 講師
平田 裕一(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

指導者養成委員会

鈴木 由美	女子美術大学 非常勤講師
富山 浩三	大阪体育大学 教授
中村 正雄	大東文化大学 教授
神崎 清一(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 専務理事

日本キャンプミーティング・タスクチーム

青木 康太朗	(独法)国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員
遠藤 知里	常葉大学短期大学部 准教授
永吉 英記	国士舘大学 准教授
渡邊 仁	筑波大学 助教
神崎 清一(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 専務理事

地域連携委員会

村山 昌俊	北海道・東北ブロック 新潟県キャンプ協会
田丸 良明	中部・北陸ブロック 石川県キャンプ協会
甲斐 知彦	近畿ブロック 兵庫県キャンプ協会
大天 嘉行	中国・四国ブロック 岡山県キャンプ協会
工藤 福成	九州・沖縄ブロック 大分県キャンプ協会
藤枝 隆(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 常務理事 関東ブロック (NPO) 東京都キャンプ協会

総務委員会

神崎 清一	(公社)日本キャンプ協会 専務理事
神谷 稔	(NPO)埼玉県キャンプ協会 理事
藤枝 隆(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

事務局職員

(2018 年 3 月 31 日現在)

事務局長	依田	智義	(全体統括)
事務局次長	秋山	千草	(法人事務)
主任主事	吉野	宏美	(公 1 事業)
主事	前田	將太	(公 2 事業)
主事	五月女	真弓	(公 1 事業)

静岡県立朝霧野外活動センター職員

所長	太田	恒義
副所長	齋藤	祐幸
コーディネーター	太田	正義
事業課長	櫻井	良樹
指導職	保科	哲也
指導職	向島	克明
指導職	小西	岳勝
指導職	立林	雅貴
指導職	北條	友加里
アルバイト	鈴木	みさえ
アルバイト	杉山	奈都子



NCAJ

National Camping Association of Japan

